

栗栽培・収穫後の管理

JA大阪北部管内では、色々な果樹が栽培されていますが、平成26年度の「栗」は豊作で、多くの出荷がありました。今回は銀寄栗をより良くするため、収穫後の管理を紹介します。

栗の特徴

栗は樹勢が強くとっても大きくなります。また他の果樹に比べ光要求量が多いため、日当たりの良し悪しが結実を左右します。そのため冬の間には整枝や剪定を行い樹全体に太陽の光が当たるようにしましょう。密度の濃い枝ぶりは厳禁です。

収穫後の栗園

● 病害虫防除の為、栗のイガや枯葉はなるべく早く園外に持ち出しましょう。

剪定の目的

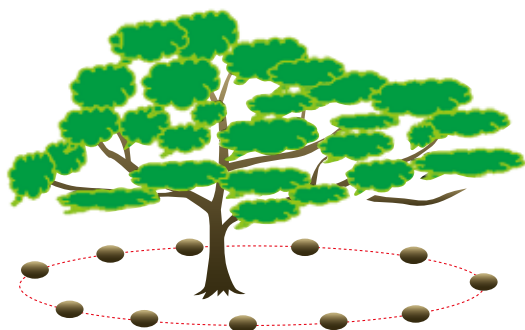
- 樹全体の日当たりを良くし、果実を大きくする。
- 樹の内部や樹間の風通しをよくすることで、病害虫の発生を抑え品質を高める。
- 収穫や栽培管理、農薬散布をしやすいうちに樹高を低くする。
- 日陰をつくる枝を剪定して枝の枯れこみを防ぎ充実した枝をつくる。

剪定のポイント

- 整木・剪定は毎年12月～3月の休眠期間に行いましょう。
- 樹高は3～4メートル以内に抑えるようにします。(低樹高栽培)
- 若木の間は、樹形を乱す逆行枝や重なり枝を間引く程度にしましょう。
- 樹が大きくなると、日陰になり枝が枯れ込むため、混み合っている太枝は間引き剪定(心抜き)します。
- 徒長枝・垂れた枝を間引き、長すぎる枝は途中で切り返す。横に広がる枝を優先して残し、逆に内側に伸びる枝は切ります。
- 栗は切りすぎてもどんどん新芽が生えるので、思い切って整木・剪定しましょう。

施肥

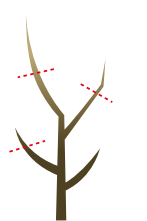
- 樹一本当たり(8年生以上の成木)、大阪北部工コ有機3号を年間8kg程度に下表の時期に分けて施肥しましょう。
- 植付1～2年目は2割、3～7年目は5割程度に減らしましょう。



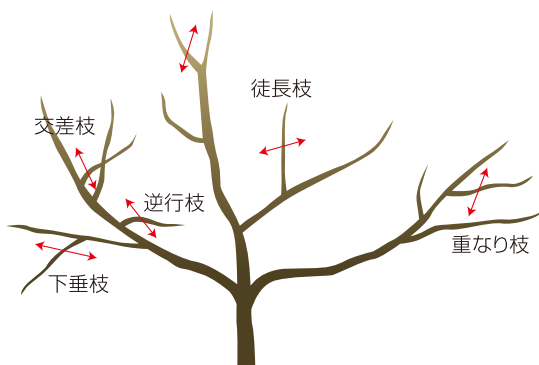
▲枝の先端の下に深さ3cmくらいの穴を掘り施肥する。



▲間引き剪定



▲切り返し剪定



▲剪定の時に切るべき枝

| 施肥時期 | 2月下旬 (元肥) | 7月上旬 (実肥) | 10月下旬 (礼肥) |
|------|--------------|--------------|---------------|
| 施肥量 | 4.0kg | 2.0kg | 2.0kg |

元肥は根が活動する前の2月下旬に、実肥は果実の充実を図るため7月上旬に、礼肥は来年の生育に使う養分を貯えるため、収穫後(10月下旬～11月中旬)なるべく早い時期に施肥しましょう。

詳しくは、各購買店舗又は能勢営農経済センターまでお問い合わせ下さい。